



公認会計士入門講座:初心者コース 上ヶ原

公認会計士入門講座:日商簿記3級修了者コース 上ヶ原

日本経済を支える財務会計のプロを目指す。

【公認会計士とは?】

企業が公表する財務書類等が適正に作成されているかを監査し、その情報の信頼性を確保する業務等を行う「監査」及び「会計」の専門家です。今日の市場経済を支える非常に重要な役割を担うため、高度な専門的知識とスキルが要求されます。また、公認会計士は税理士として登録することが可能なため、その業務内容は監査のほかにも税務、コンサルティング等非常に多岐にわたり、監査業務以外にも多くの活躍の場が期待できる資格といえます。

公認会計士の業務の拡がりや、試験科目には法律科目が含まれていることから商学部生、経済学部生に限らず、所属学部がどの学部であっても公認会計士になれる可能性があります。

【講座概要・特色】

1. 講座概要

本講座は、公認会計士を目指す方はもちろん、公認会計士に興味はあるが学習方法や内容がよくわからないという方にとっても、安心して公認会計士試験の受験勉強が始められるように作られた「入門編」の講座です。本講座では、まず公認会計士試験の最重要科目である簿記を基本から学ぶカリキュラムとなっています。講義と問題演習を繰り返すことで、基本知識の定着化を図ります。また、後半では各試験科目の概略説明、学習内容や学習方法についてのアドバイスをご提供します。本講座で基礎固めをした後、他の試験科目を含めて引き続き学習を進めていけば、2023年の公認会計士試験に合格することも夢ではありません。

2. コースについて

【初心者コース】は初学者用として、日商簿記3級の学習から始められるカリキュラムとなっています。日商簿記3級、2級合格者または合格レベルの知識を得ている人は、【日商簿記3級修了者コース】を受講してください。

募集定員	● 初心者コース: 25名	募集締切	● 初心者コース: 4月12日(月)
	● 日商簿記3級修了者コース: 10名		● 日商簿記3級修了者コース: 6月4日(金)
受講料	● 初心者コース: 在学・卒業生 18,000円 / 一般 23,000円	● 日商簿記3級修了者コース: 在学・卒業生 5,000円 / 一般 7,000円(全て教材費を含む)	

注意事項 本講座終了後、受講生は協力校であるTAC株式会社の各校において、特別割引料金にて学習することができます。

【カリキュラム・スケジュール】

初心者コース		時間	講座内容
4月	21日(水)	18:50~21:30	簿記 オリエンテーション、簿記3級講義①
	23日(金)		簿記 簿記3級講義②
	26日(月)		簿記 簿記3級講義③
	28日(水)		簿記 簿記3級講義④
	30日(金)		簿記 簿記3級講義⑤
5月	7日(金)		簿記 簿記3級講義⑥
	10日(月)		簿記 簿記3級講義⑦
	12日(水)		簿記 簿記3級講義⑧
	14日(金)		簿記 簿記3級講義⑨
	17日(月)		簿記 簿記3級講義⑩
	19日(水)		簿記 簿記3級講義⑪
	21日(金)		簿記 簿記3級講義⑫
	24日(月)		簿記 総まとめ講義
6月	26日(水)		簿記 過去問対策①
	28日(金)		簿記 過去問対策②
	31日(月)	簿記 的中答練①	
	2日(水)	簿記 的中答練②	
	4日(金)	簿記 的中答練③	
7月	14日(月)	会計 公認会計士とは? 仕事や受験勉強のリアルをお伝えします! 財務会計論入門①	
	21日(月)	会計 財務会計論入門②	
	28日(月)	会計 管理会計論入門	
7月	5日(月)	会計 監査論入門 / 企業法入門	
	12日(月)	会計 公認会計士試験と受験準備について	

日商簿記3級修了者コース		時間	講座内容
6月	14日(月)	18:50~21:30	会計 公認会計士とは? 仕事や受験勉強のリアルをお伝えします! 財務会計論入門①
	21日(月)		会計 財務会計論入門②
	28日(月)		会計 管理会計論入門
7月	5日(月)		会計 監査論入門 / 企業法入門
	12日(月)		会計 公認会計士試験と受験準備について

【公認会計士試験の概要】

2006年度に受験資格が撤廃されて以降、より多くの方が公認会計士試験に挑戦することが可能となりました。試験は短答式試験と論文式試験に分かれており、短答式試験の合格者又は免除者が論文式試験を受験することができます。

短答式試験は年2回、5月及び12月に実施され(予定)、一度合格すると合格発表の日より2年間は短答式試験が免除されます。短答式試験に合格すれば、その合格した年を含め論文式試験を3回受験することができることとなります。論文式試験は年1回、8月に実施され(予定)、一括合格制を前提としていますが、成績が優秀な一部の科目については、それ以降2年間免除されます(科目合格)。

2019年の合格者は1,337名で、公認会計士の活躍のフィールドは今後も拡大する傾向にあります。

参考 公認会計士・監査審査会
<https://www.fsa.go.jp/cpaab/>

短答式試験

- 【実施時期】**
年2回(第1回12月上旬、第2回5月下旬)実施
- 【出題形式】**
マークシートによる択一式試験
- 【試験科目】**
●財務会計論(簿記・財務諸表論ほか) ●監査論
●管理会計論(原価計算ほか) ●企業法(商法ほか)
- 【採点・合否判定】**
●1科目ごとではなく、4科目の総点数で合否判定
●合格基準は総点数の70%を基準として公認会計士・監査審査会が相当と認めた得点比率(1科目でもその満点の40%に満たない科目があれば不合格となる可能性がある)
●免除科目がある場合の合否判定は「免除科目を除いた他の科目の合計得点の比率」により判定
●短答式試験合格者は、以降2年間短答式試験免除

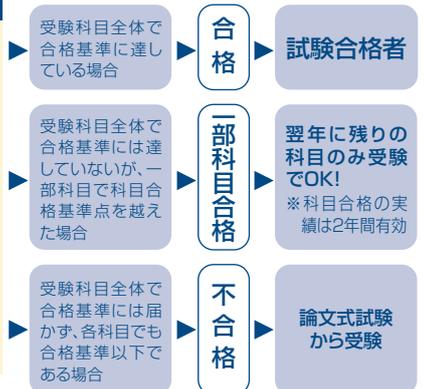
論文式試験

- 【実施時期】**
年1回(8月中下旬)実施
- 【試験科目】**
●会計学(財務会計論及び管理会計論) ●監査論
●企業法(商法ほか) ●租税法(法人税法ほか)
●経営学、経済学、民法、統計学から1科目選択
- 【採点・合否判定】**
●1科目ごとではなく、5科目で合否判定
●52%以上の得点比率を基準として公認会計士・監査審査会が認めた得点比率(1科目でも得点比率が40%に満たない科目がある場合、不合格となる可能性がある)
●免除科目がある場合の合否判定は「免除科目を除いた他の科目の合計得点の比率」により判定
●不合格者の中で、一部の科目で相当の成績を得たと認められる者は、以後2年間の論文式試験の当該科目を免除

合格



短答式試験に合格すると、その年だけでなく以降2年間の試験の短答式試験が免除になります。



*年度により変更になる可能性があります。ホームページ等で必ず最新情報を確認してください。